

思考スキルを活用・発揮し、思いを表現できる児童の育成
～「主体的・対話的で深い学び」に視点をのいた授業改善～

留萌市立緑丘小学校
学級数 11
(校長 安田 善見)

I 実践テーマの趣旨

1 本校の現状と研究の方向性

令和元年度に実施した全国学力・学習状況調査では、国語の出題の趣旨別に見てみると「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」などにおいて正答率が低くなっている。算数では「示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる」「示された計算の仕方を解釈し、減法の計算を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる」などにおいて正答率が低い。これらのことから、本校の児童は、自分の考えを整理したりそれを表現したりすることについて課題が見られる。授業の交流の場面を振り返ってみると、一部の児童のみの話し合いになっていたり、一見活発な対話が行われているようでも、話し合いが堂々巡りになり、授業のねらいから離れてしまったりすることがある。全ての児童が自分なりの考えをもちながら対話の場に参加し、考えを広げたり深めたりする授業の実現には至っていない。

そこで令和2年度から『思考スキルを活用・発揮し、思いを表現できる児童の育成 ～「主体的・対話的で深い学び」に視点をのいた授業改善～』を研究主題に設定し、社会の変化に対応し、生き抜くために必要な資質・能力を備えた児童を育み、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、「思考スキル（考えるための技法）」の活用に関心をあてた研究を推進してきた。

【国語】

1. 調査結果の概要

国語	緑丘小平均正答率	全国との差	全国平均
	64.0%	0.2%	63.8%

問題の概要	出題の趣旨	領域	緑丘小	全国平均	差
一 公衆電話について調べたことを【報告する文章】で(資料2)と(資料3)をそれぞれどのような目的で用いているか、適切なものを選択する	図表やグラフなどを用いた目的を捉える		72.7	71.2	1.5
二 公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「(2) 公衆電話にはどのような使い方や持ちようがあるのか」における書き方の工夫として適切なものを選択する	情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の工夫の工夫を捉える	書くこと	60.6	63.4	-2.8
三 公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「(2) 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く		33.3	28.8	4.5
① 四 (資料1)の「(1) 公衆電話について調べたことを【報告する文章】」の「(2) 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く			42.4	41.0	0.5
二 (資料2)の「(1) 公衆電話について調べたことを【報告する文章】」の「(2) 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く	工夫を捉える	聞くこと	55.6	57.4	-1.8
三 【インタビューの様子】の「(1)」に、職場人の仕事への思いや考えに着目して心に残ったことを書く	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる	聞くこと	51.5	68.2	-16.7
四 (資料1)の「(1) 公衆電話について調べたことを【報告する文章】」の「(2) 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く	ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる	言語的表現と読解の関わり	60.6	73.0	-12.4

II 緑丘小学校の子どもたちが自らを高める学校づくり（緑丘小学校ランドデザインより）

目指す学校の姿

子どもたちが自らを高める学校づくり

- ①全校で統一した学習規律の定着
 - ※「緑小スタンダード」等の定着 90%以上、自己評価 2.4 以上
- ②理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の実現
 - ・見通しと振り返りを大切に授業づくり
 - ・ノート指導、板書の充実 ・ ICT を活用した授業づくり
 - ・プログラミング教育等、教科横断的な視点に立った教育活動の充実
 - ・「留萌ならではの・緑小ならではの」のきょう行く活動の推進
 - ※授業がわかる 90%以上
- ③機会を活かし進んで学ぶ子どもの育成
 - ・家庭での学習習慣の確立
 - ・朝学習、放課後や長期休業中の補充・発展学習
 - ※家庭での学習に取り組む 80%以上



心と体づくり

- ①健やかな心と体の育成
 - ・心を耕す読書習慣の確立
 - ・体力向上係による体力づくりの取組
 - ・新体力テストの実施と体力ファイルを活用した運動の習慣化
 - ・保健室経営と運動した保健指導
 - ※自己評価で読書活動の評価 2.4 以上
 - ※毎日 1 回以上は運動する 80%以上
- ②望ましい生活習慣の確立
 - ・ショートメテアデーの実施
 - ・「早寝・早起き・朝ご飯運動」の推進
 - ・担任による給食時間における指導
 - ※TV、ゲームは1日3時間以内 90%以上
 - ※毎朝、朝食を食べる 100%

学びをつなぎ、活かす学校づくり



仲間づくり

- ①学年・学級を基礎とした仲間づくり
 - ・一人一人が自己有用感を感じられる教育活動
 - ・誰に対しても公平で、互いに認め合ういじめを許さない仲間づくり
 - ・共通の目標に向かって、努力し高め合う集団づくり
 - ・友達と学び合う授業づくり
 - ※自己評価で自己有用感の評価 2.4 以上
- ②学年をこを超えた仲間づくり
 - ・愛校心を高める各種行事の実施
 - ・異学年の仲間と助け合う縦割り班活動
 - ・課題を見付け解決の活動を考える児童会活動
 - ・創意工夫する、主体的な委員会活動
 - ※困っている人がいたら助ける 90%

チーム力を高める学校づくり

チーム力を高める学校づくり

- ①新学習指導要領全面実施に伴う教育課程の編制・実施・改善
- ②子ども一人一人のニーズに応じた特別支援教育の充実
- ③「ほっかいどう学力向上推進事業」や「学力向上に関する総合実践事業」等を活かした校内研修の充実
- ④児童の道徳性の涵養をめざし、考え、議論する道徳の実践
- ⑤探究的な見方・考え方を働かせ、育てたい資質・能力の育成をめざす総合的な学習の時間の実践
- ⑥集団や社会の形成者としての資質・能力の育成をめざす特別活動への改善
- ⑦ライフステージに応じた研修の充実
- ⑧社会人としての自覚と責任
- ⑨働き方改革への挑戦
 - ・超過勤務が月45時間以内、年360時間以内をめざす
 - ・ICTを有効に活用した職務改善の推進

III 実践の概要

本校では、昨年度までの算数科における「主体的・対話的で深い学び」に視点を置いた研究を継承しながら、研究教科を全教科・領域に広げ、児童が自らの考えをもち（整理し）、対話の場に参加することを旨とし、「思考スキルの活用・発揮」に重点を置いて研究を進めている。

1 「主体的・対話的で深い学び」に視点を置いた授業改善

(1) 「主体的な学び」の実現に向けて

主体的な学びを実現するには、児童に「自分自身で判断し行動できる力」を身に付けさせることが求められると考える。そのため、「興味や関心をもつ」「見通しをもつ」「振り返って次へつなげる」の視点に重点をおいて授業改善を行った。

児童が自ら行動するためには、「問題意識」をもたせる必要がある。自分自身の問題意識をもつことで初めて追究する課題が明確になる。そのためには児童が解決したいと自然に思える課題を設定することが大切である。この問題意識が強くなればなるほど、単元全体の学習を見通してねばり強く取り組む姿勢につながると考え、問題提示の工夫を大切にされた授業づくりをしている。また、主体的な学びを成立させるためには、その日の学習で何ができたのか、できなかったのか、それはどうしてかを振り返ることで次時へと学習をつなぐことができると考え、授業改善の視点に入れ、実践を進めてきた。

(2) 「対話的な学び」の実現に向けて

集団での対話を通して、意見の共通点や差異点を整理し、学習の目標を達成するための最適解を選択したり、情報を組み合わせたりするなど、新たな知識や考え方を共有・創造することで、個人の学びが深くなると考え、対話的な学びを大切にしている。

(3) 「思考スキルを活用・発揮」する場の設定

① 思考ツールの活用

学習指導要領解説 総合的な学習の時間編に示されている「考えるための技法（思考スキル）」をもとに思考ツールを10に絞って研究を進めている。

（北海道教育大学附属旭川小学校

「技法&ツール」ハンドブック2019を参考に作成）

実践例1【Xチャートを使って分類する】

2年生生活科

視点1-①興味や関心を高める 視点1-⑤振り返って次へつなげる
町探検に出かける前に児童が知っている「まちのすてき」を挙げて交流した。Xチャートで分類した。

【指導の効果】「お店」「場所」「人」「自然」という視点を与えて分類することにより、児童は「自然」や「人」が少ないことに気付き、町探検で見付けたい課題を自ら発見することができていた。



「自然」や「人」が少ないね！

探検に行ったら探してみたいな！

ここの順番を入れ替えた方がいいんじゃないかな？

実践例2【ステップチャートを使って物語の構成を考える】

6年生国語

視点1-②見通しを持つ 視点2-③思考を表現に置き換える など
ステップチャートを使い、山場を意識して物語のあらすじを考える活動を設定した。

【指導の効果】付箋を使ったことで、順序を入れ替えたり付け足したり削除したりと、試行錯誤しながら物語の構成を考えることができた。作文が苦手な児童も考えを整理することができ、その後の交流に主体的に参加することができていた。



◇視点1 <自己の学習を見直し、振り返って次につなげる主体的な学び>

- ①興味や関心を高める R2重点
 - 解決の必要感ももてる課題の設定
 - 主体的に向き合える課題提示の工夫
 - 解決までのストーリーの提示
- ②見通しを持つ R2重点
 - 単元の学習過程や育成する資質・能力の明確化
 - 課題解決のプロセスの明確化
- ③自分と結び付ける
 - 自分ごととして考えることのできる課題の設定
 - 学んだことを自分にフィードバックする場の設定
- ④粘り強く取り組む
 - 課題解決に向けた学習過程の工夫
 - 互いに認め合う関係性の構築
- ⑤振り返って次へつなげる R2重点
 - 単元を見通した「振り返り」の場の設定
 - 書く内容の焦点化
 - 「振り返り」の共有

◇視点2 <自己の考えを広げ深める対話的な学び>

- ①互いの考えを比較する R2重点
 - 考えの根拠や思考過程の可視化
 - 視点を明確にした話し合いの場の設定
 - 違いを認め合える学習集団
- ②多様な情報を収集する R2重点
 - 複数の方法による多様な情報の収集
 - 多様な情報の整理
- ③思考を表現に置き換える R2重点
 - 根拠をもとにした考えの構築
 - 互いの考えを確認する場の設定
- ④多様な手段で説明する R2重点
 - 多様な表現方法の提示
 - 他者へ説明することの意義の確認
- ⑤先哲の考え方を手掛かりとする R2重点
 - 先哲の考えの共通理解
 - 先哲の考えの活用
- ⑥共に考えを磨き上げる R2重点
 - 協働して解決する価値や意義のある課題の提示
 - 自分たちで選択した既習事項や方法を活用した課題解決
- ⑦協働して課題解決する R2重点
 - 一人一人が自分の考えをもつ場の設定
 - 課題解決のゴールイメージを共有
 - 互いの考えを聞き合える集団の構築

思考スキル (考えるための技法)	思考の具体	思考ツール
順序付ける	複数の対象について、ある視点や条件に沿って対象を並び替える。	ステップチャート 1 2 3
比較する	複数の対象について、ある視点から共通点や相違点を明らかにする。	Venn図
分類する	複数の対象について、ある視点から共通点のあるものをまとめる。	Yチャート Xチャート Wチャート Y X W
関連付ける	複数の対象がどのような関係にあるかを発付ける。 ある対象に関連するものを発付けて整理していく。	ウェブマップ
多面的に見る・多角的に見る	対象の持つ複数の性質に着目したり、複数の異なる観点の角度から捉えたりする。	マトリクス
理由付ける (原因や結果を発付ける)	対象の理由や原因、結果を発付けたり予想したりする。	クラフチャート
予測する (結果を予想する)	見通しを立てる。物事の結果を予想する。	キャンディーチャート
具体化する (顕微化する、分類する)	対象に関する上位概念・抽象に当てはまる具体例を挙げたり、対象を構成する下位概念や要素に切り分ける。	ピラミッドチャート

② 連続ドラマ型授業を目指した指導案

毎時間の学習がこま切れになっている授業から一歩進めて連続ドラマ型の授業づくりを目指し、指導案の「研究の視点に関わって」の部分では、単元の学習全体をイメージした単元構想をダイジェスト風を書くことにしている。ドラマでいうところの最終回に向けてどのように授業を構成していくか、ストーリーを描くことで学習のつながりやしなかけを意識した指導案作成を行っている。



中小工場が日本の工業を支えていることが分かった！

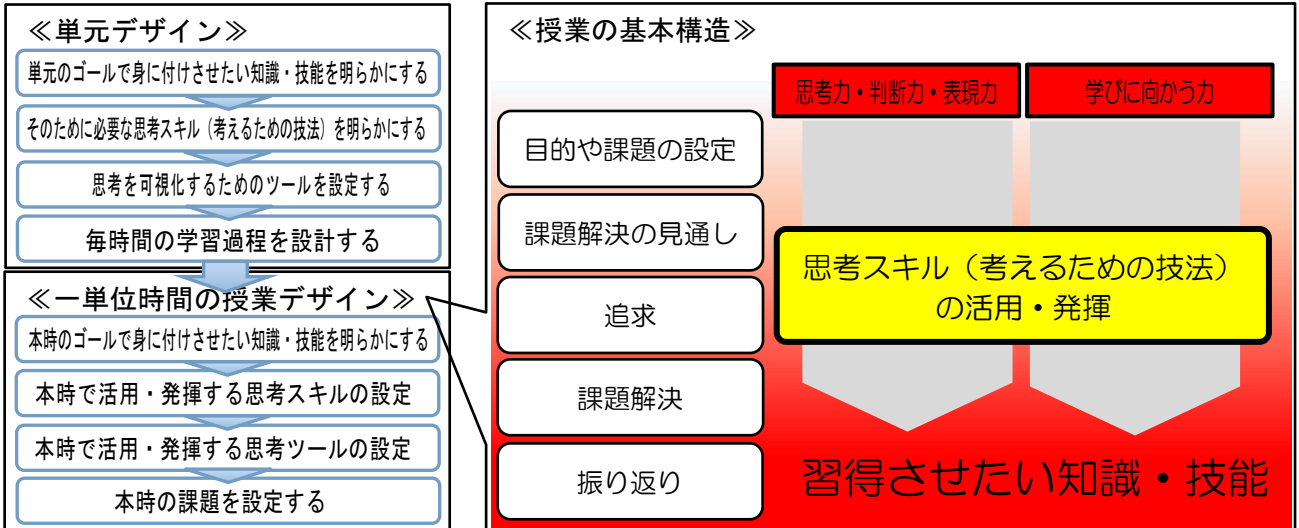
それなら、どうして部品を輸入しているのかな？

実践例3【付箋を使って情報を蓄積する】

5年生社会科
 視点1-②見通しをもつ 視点2-⑦協働して課題解決する など
 単元の終末に日本の工業の強みについて意見交流する学習を設定した。毎時間の学習では分かったことを付箋に書きためていくことにした。
 【指導の効果】単元のゴールが明確になっているため、目的意識をもって毎時間の学習することができていた。

③ 身に付けさせたい資質・能力を明確にした、単元デザイン

単元計画を作成する際には、まず単元のゴールで身に付けさせたい知識・技能を明らかにする。そして、その知識・技能を身に付けさせるため必要な思考スキルを明らかにし、活用する思考ツールを設定する。最後に単元全体の流れをもとに毎時間の学習内容を設計することになっている。一単位時間の学習も、授業を逆向きに設計し、本時の学習で身に付けさせたい知識・技能を身に付けさせるために活用・発揮する思考スキルや課題を設定するようにしている。



2 家庭との連携による教育活動の推進

(1) 家庭との共通理解の方策

令和元年度から学級通信ではなく、学校だよりにより各学年の様子や情報を掲載し、教育活動に関する共通理解を図っている。この取組により、全学年の様子を知らせることができるようになり、学級担任の業務が軽減され、学級担任が児童と向き合える時間が一層増えた。

また、年度当初には、「よくわかる緑丘小学校」を作成し、生活面、学習面等において全校でそろえて指導していることを保護者に明示し、共通理解を図っている。



各学級の取組、学級の様子など

全学年共通する連絡事項



全家庭に配付。最低限そろえるところを明確に示し、共通理解を図っている。

(2) 学力チャレンジカレンダーの作成

チャレンジテストや漢字・計算コンテストなど、学力向上に関わる年間の計画を校内に掲示している。このことにより、学力向上の取組に対し、児童と保護者、教員が見通しや目標をもって折り組むことができています。



(3) 家庭学習の取組

自校の課題である読解力の育成に向けて、A3の用紙に、国語の文章問題と算数の問題を印刷し、全校で宿題の内容を統一して取り組んでいる。また、家庭学習チェックシートを使い、家庭での学習時間（宿題、家読、自主学習）を把握する取組を行っている。

学年	目標	実施	1週間合計	1週間合計
1年生	15分	15分	15分	15分
2年生	20分	20分	20分	20分
3年生	25分	25分	25分	25分
4年生	30分	30分	30分	30分
5年生	35分	35分	35分	35分
6年生	40分	40分	40分	40分

3 学校力向上にむけた校内研修の充実

(1) 校内研修の工夫と充実

① 15分研の取組

月1回、月末の金曜日に16:25～16:40の15分間実施している。内容は、事前に行ったアンケートをもとに決定しているが、各担当者が学びたい、他の教員に伝えたいと考えた内容を実施している。

② メンター研修

20～30代の若手教員（メンティー）が、日ごろの指導で悩んでいることやもっと知りたいと思っていることをテーマに、学習会を年間に5回実施している。研修内容はメンバーで決定し、場合によっては、メンターのメンバーを講師に立て実施する。メンティーが参加することが前提であるが、興味をもったメンターの教員も参加できるようにしている。



【15分研の様子】

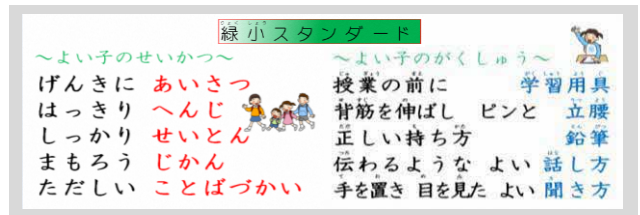
【メンター研修の日程と実施内容】

- 6/16 音楽の授業づくり
- 7/28 評価について
- 今後は…
- 気になる児童への対応 保護者対応
- プログラミング教育 などを予定

4 学びの土台となる取組

(1) 緑小スタンダード

生活規律として『よい子の生活』、学習規律として、『よい子の学習』を設定している。わかりやすい簡潔な文言で児童にも浸透している。



(2) 緑小漢字コンテスト・緑小計算コンテスト

緑小漢字コンテストは、夏と冬の長期休業明けに実施する本校独自の漢字テストである。学習意欲を高め、達成感を味わわせるとともに基礎学力の向上を図っている。合格点を80点に設定し、点数に応じた称号が与えられる。全校児童が最高ランクであるプラチナを目指して自主学習等で漢字練習を行っている。計算コンテストは年に1回、秋に実施する計算問題のみのテスト。出題は教科書からのみとし、漢字コンテストと同様に合格点を80点以上としている。自主学習などで合格に向けて練習に取り組む姿が見られる。

(3) 放課後補充学習

毎月一回程度、放課後の30分間を利用し、補充学習を実施している。内容は国語・算数の定着率の低い単元のプリントを用意し、指導している。担任以外の教員も配置し、複数の教員での細やかな指導を目指している。

IV 実践の成果と今後の課題

- 授業において、見通しをもたせることや、振り返りの場を設定することで、以前よりも主体的・対話的に学習に取り組む児童が増えてきている。
- 思考ツールを学習場面に応じて適切に活用することで、思考を整理し、自分の考えを進んで表現しようとする意欲が高まっている。
- 授業改善を支える学びづくりでは、校内で統一、継続した家庭学習の推進や学習規律の徹底が図られていることで、全国学力・学習状況調査の正答率の向上につながっている。
(国：H31…64%→R2…自校採点 72% 算：H31…61%→R2…自校採点 68.8%)
- 思考ツールの活用が目的となってしまうことがないよう進めていく必要がある。
- 標準学力検査(CRT)や学力学習状況調査の誤答の傾向を分析し、児童がどこにつまずいているのかを明らかにし、基礎的・基本的な力の確実な定着を図られるように、校内研修を充実させる必要がある。